

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第31号 平成25年11月29日発行



平成25年8月27日
夏季若手教員育成研修(2・3年次)

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分

日野市市制施行50周年の年

日野市教育委員会 教育部
教育指導担当参事 大野 正人

11月2日から4日にかけて、日野市市制施行50周年を記念し、ひの煉瓦ホール及び日野市市民の森ふれあいホールにおいて様々な記念イベントが開催されました。その中において、ひのっ子たちの若さ溢れるいくつもの素晴らしい活躍がありました。大きく分けて、展示発表、舞台発表でしたが、合唱や合奏・演奏、ダンスパフォーマンス、作品展示、プレゼンテーション等を通して、日野市の自然や産業、文化・歴史についてや現在の状況について、また、今後の日野の町や学校教育に対する夢や希望等について発表されました。この場をお借りして、発表いただきました園児・児童・生徒の皆さん、ご協力いただきました関係諸機関の皆様に感謝申し上げます。



さて、これまで日野市教育委員会は、「ICT活用教育の充実」、「特別支援教育の充実」、「幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携教育の充実」、「生活指導の充実」を推進事項の四本柱として重点的に取り組んでまいりました。学校や教育センターと連携を図り、研修、相談活動の他、教育センターにおいては調査研究部による理科教育推進研究、郷土（ふるさと日野）教育推進研究、ひのっ子教育21開発委員会研究等について実践的な研究の推進を実施しているところです。このたびの子供たちの発表を受け、学校教育の重要性とともに教育センターの活動の重要性についてもあらためて再認識いたしました次第です。

今年度のひのっ子教育21開発委員会では、社会、理科において問題解決的な学習を通し、思考・判断・表現力の育成・向上に視点を当てた研究が進められております。また、研修部を中心とした担当セクションにおきましては、新規採用教員の増加から、教員の資質・能力の向上に向けた研修全般に力を入れ、巡回授業参観などを通じた指導・育成活動を行っております。

教育相談部では、電話や面会による様々な教育相談を行い、相談者の心配や悩みに傾聴し、解決に向けた取組を行っております。適応指導教室「わかば教室」では、コミュニケーション能力の育成指導や学習支援を行っております。また、eラーニングによるインタラクティブスタディなど、幅広く行っているところです。日野サンライズプロジェクトとして学校巡回訪問相談などの登校支援活動につきましても、3年目を迎えております。

今後とも、教育センターが文字どおり研修等の中核として、教育センターにおける研究活動と学校における教育実践活動とが連携した中で推進され、日野市の園児・児童・生徒たちの意欲喚起、資質・技能の向上に貢献していくことを願い、あいさついたします。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、11月現在の進捗状況や成果をお知らせします。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

身の回りの自然を教材に～足元の大地を見つめて～

日々生活し、踏みしめている地面、大地について私たちはどの程知っているのでしょうか？

大きな地震の心配や活断層の存在、液状化現象、そしてゲリラ豪雨による水害などの自然災害は、土地の成り立ちやつくりが大きく関係しています。小・中学校の理科、B区分又は第2分野の「地球」の授業で、日野の大地を取り上げることにより児童・生徒は普段は気にしていなかった地面に興味・関心を持ち、自然と調和した生き方を考える機会になると考えます。

(1) 南平高等学校西側の露頭「海鳴りの丘」の地層の剥ぎ取り標本

地層が見られる場所は限られており、ほとんどの学校からは離れています。また、雑草等により見学できる時期も限られ、崩落の危険もあります。地層の剥ぎ取りを郷土資料館にお願いをし、今年の2月専門の方が海鳴りの丘の地層の剥ぎ取りを行い、2枚地層の標本(1枚は掲示用、1枚は学校への貸し出し用)をとりました。郷土資料館では成形作業を進めています。地層の剥ぎ取り標本の貸出しは、郷土資料館で行っています。

(2) DVD「日野の大地は語る」

11月中旬に市内の小・中学校全校に配布をしました。内容を右図にまとめました。映像1～4は剥ぎ取りをした際、剥ぎ取りをした所沢西高等学校・倉川博先生に海鳴りの丘を中心とした日野の大地について説明をいただいた時のビデオです。また、映像5は、日野高等学校が今年1月に行ったアケボノゾウの足跡調査の記録です。映像はフリーカメラマンの井上録郎氏に撮っていただきました。

資料1は剥ぎ取り標本の地層の見方の説明です。資料2では200万年前からの日野の大地がつくられる様子をまとめました。資料3は多摩川や多摩動物園近くで発見されたクジラとゾウの化石についてです。資料4では小・中学校の標高と化石の発見場所や地層の見られる場所を示しました。また、5カ所の地層の様子も写真と分で紹介しています。資料5は、日野第七小学校が海鳴りの丘で行っている学習の様子の紹介です。

(3) 160万年前の大地に触れてみよう

— 小教研理科部の現地研修会・11月6日（水）—

・海鳴りの丘：約160万年前の小山田層。日野の大地の説明や授業での活用例、地層の観察・自噴水の見学：水が噴出するわけ・南平丘陵公園入口：堀之内第二火山灰。約165万年前の北アルプス起源の火山灰採集「模擬実験で理解させるよりしっかり露頭を観察させる方が余程わかりやすいね」との感想もありました。

「日野の大地は語る」掲載内容

映像：1「日野の大地は語る」

2「海鳴りの丘の地層1」

3「海鳴りの丘の地層2」

4「日野の地層と多摩川」

5「多摩川・ゾウの足跡調査」

6「地層の剥ぎ取り作業」

資料等：1海鳴りの丘剥ぎ取り面と説明

2日野の大地の生いたち

3クジラとゾウの化石

4日野全図標高入り

- ・海鳴りの丘
- ・海鳴りの丘の西側の裏側
- ・南平丘陵公園入り口
- ・熊野神社裏
- ・ほほえみ公園下

5日野第七小学校の学習の様子



2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

1. 郷土教育の普及・啓発とフィールドワーク

郷土教育推進研究委員会では、「ふるさと日野」に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成するため、成果の普及・啓発に努めています。その一環として、毎年夏季休業中に、教師自ら日野のよさを理解し、教材化の視点を探り、教材化の方法を学ぶ一日研修会を開催しています。今年度は7月26日に「日野地区（旧日野宿）の歴史・文化・人を訪ねて」のテーマで、フィールドワークと日野第一小学校の図書室をお借りして、事例発表・演習・まとめ等の研修会を実施しました。

2. 日野宿フィールドワーク

(1) 地図と写真を活用し宿場町を歩く

今尾恵介氏作図のイラストマップ「まちかど写真館 in ひの案内図」と高木昂氏作図の「日野宿家並（明治～大正までの区割）」を手に宿場町を観察しながら歩きました。現在、日野のまちには「まちかど写真館」として、明治から昭和30年代までの古い写真が展示されています。地図と写真を併用すると、より具体的に町の変化に気付き、疑問をもつことができます。さらに室内研修で、大正期と昭和期（戦前）の日野の地形図を比較しました。フィールドワークで見たこと、聞いたことを町の発展の中で考えることができ、多くの疑問や課題が生まれます。この疑問や課題を整理することにより「学習計画」を立てることができます。日野宿の教材化が楽しくなり、授業実践への意欲がわいてきます。



(2) 博物館・図書館を活用し日野宿を調べる

「日野宿本陣」は、都内に現存する唯一の本陣建築です。日野市では「日野宿本陣」ですが、東京都は「日野宿脇本陣」として文化財に指定しています。ここでは、建築・宿場町・名主・新選組について学ぶことができます。さらに、甲州道中・参勤交代・日野の渡しへと発展させることができます。「日野宿交流館」では、日野宿のジオラマが見られ、甲州道中日野宿の歴史と文化が展示され、新選組・日野の近代化についても学べます。本陣で学んだ知識・理解を確かなものにするのができます。「日野図書館」は、問屋場の跡地に建てられ、地域の図書館として多くの日野宿・新選組等の地域資料がそろっています。また、日野宿発見隊の事務局が置かれ、地域の写真等の資料が収集されています。地域の図書館は、地域学習の教材研究の場として最適です。



(3) 人材を活用し日野宿の理解を深める

日野宿には、戦国時代・江戸時代以来の歴史があり、その歴史をつくってきた先人のご子孫が活躍しています。子孫の皆様は、郷土日野の伝統や文化を深く理解・尊重し、継承・発展のため努力されています。日野宿の人々から日野宿の歴史や文化を学ぶと共に、その人の生き方や思いを学ぶことができます。教科学習の他、道徳の生きた教材ともなる方々です。今回は八坂神社宮司「土淵眞佐子」様、大昌寺住職「杉浦靖俊」様、日野宿名主佐藤彦五郎子孫「佐藤福子」様、日野図書館長・日野宿発見隊事務局長「石嶋日出男」様、新選組六番隊長井上源三郎子孫「井上雅雄」様が講師として熱い思いを語ってくださいました。歴史ある現地で、しかも衣装までご配慮いただき、参加者一同郷土日野の歴史・文化・人を理解し、日野人の思い・願い・努力・生き方にふれることができました。



3. 「地域は教材」「地域は教室」「地域は先生」「地域は家族」

郷土教育（フィールドワーク）の基本は、①現地に足を運ぶ②自分の目で確かめる③様々な人に取材して、自分の考えを確かなものにしていくことです。つまり、郷土教育の授業は、机上の学習ではなく本物とふれあう感動・実感がある授業なのです。この楽しさ、この感動を子供たちに体験させたいのです。地域のすべてが教材・教室・先生・家族なのです。「教育は実践」です。フィールドへ飛び出し、地域と共によりよい授業を創造していきましょう。

3 ひのっ子教育 2.1 開発委員会研究

基礎調査研究係

ひのっ子教育 2.1 開発委員会では、日野市内の小・中学校から、25名（小学校17名、中学校8名）の開発委員が集まり、社会科分科会（13名）・理科分科会（12名）に分かれ、感じ、考え、表現するひのっ子を育てる魅力ある授業の創造に向けて、講師の先生方の指導の下に研究を進めています。一学期は魅力ある授業について理解を深め、二学期は授業研究をして検証をしていきます。三学期には今年一年間の成果について発表をする予定です。以下、今年、一年間の基礎調査研究の実践報告を記載します。

<社会科分科会>

研究テーマ「問題解決的な学習を通して主体的に社会に参画する力を育てる」
～感じ、考え、表現するひのっ子を育てる魅力ある授業の創造のために～

社会科分科会では、日野市教育委員会の「魅力ある授業の創造」の主旨を受けて、分科会で話し合い、問題解決的な学習を通して魅力ある授業を創造していくこととし、研究テーマを「問題解決的な学習を通して主体的に社会に参画する力を育てる」としました。小学校は中学年ブロックと高学年ブロック、中学校の3ブロックに分かれて、授業研究を積み上げることにしました。

4月26日 今年度の研究推進の方針説明

分科会 リーダー、サブリーダーの選出
社会科の授業の課題

5月28日 講演会「社会科における魅力的な授業とは」
講師：聖徳大学 教授 廣嶋 憲一郎先生
研究テーマの決定

6月28日 授業参観及び講義
授業者・講師：夢が丘小学校 神野 幸隆主任教諭
授業 5年2組 単元名 食料生産を支える人々
小単元名 水産業の盛んな地域をたずねて

7月 8日 研究の手立ての確認 指導案検討

9月19日 研究授業 中学校ブロック 授業者：日野第二中学校 吉田 洋一教諭
単元名 古代国家のブロックアジア世界
本時「聖徳太子の政治改革」
講師：聖徳大学 教授 廣嶋 憲一郎先生

10月21日 研究授業 小学校高学年ブロック 授業者：夢が丘小学校 溝口 結教諭
単元名 工業生産を支える人々
講師：日野市教育委員会学校課統括指導主事 島川 浩一先生

11月12日 研究授業 小学校中学年ブロック 授業者：旭が丘小学校 岩井 美保教諭
単元名 江戸の文化を今に伝える
講師：聖徳大学 教授 廣嶋 憲一郎先生



<理科分科会>

研究主題「理科学習における問題解決能力・科学的に探究する能力の基礎の育成」

理科分科会では、本プロジェクトの趣旨に基づき4・5月に「魅力ある理科授業」について、授業や課題について話し合いました。また、6月には東京大学特任教授・日置先生から今後理科教育が歩むべき方向についてのご講演をいただきました。これまでの3回にわたる研修をもとに、7月には研究主題について話し合いをしました。小学校では問題解決能力を育むことが大切で、中学校では小学校で育成された問題解決能力をもとに科学的に探究するための能力の基礎の育成が重要であると考え、上記の研究主題を設定しました。小学校中学年、小学校高学年、中学校の3ブロックに分かれ、授業研究を通して研究主題に迫ることにしました。



4月26日 今年度の研究推進の方針説明

5月28日 リーダー選出、理科における問題解決学習について、魅力ある理科授業について
授業者決定

6月27日 講演「今後の理科教育に求められるもの」

講師：東京大学大学院教育学部研究科 特任教授 日置 光久先生

7月 8日 研究主題決定、各ブロックで二学期の授業について研究・協議

9月19日 研究授業 中学校ブロック

中学3年「運動とエネルギー(仕事エネルギー・エネルギーとは何か)」

授業者 日野第三中学校 行富 健一郎主幹教諭

講師：東京大学大学院教育学部研究科

特任教授 日置 光久先生



10月21日 研究授業 小学校高学年ブロック

小学5年「流れる水のはたらき」

授業者 仲田小学校 今井 透教諭

講師：帝京大学教育学部

教授 星野 昌治先生

11月14日 研究授業 小学校中学年ブロック

小学3年「じしゃくのふしぎをさぐろう」

授業者 日野第一小学校 馬鳥 誠教諭

講師：東京大学大学院教育学部研究科 特任教授 日置 光久先生



今後の予定としては、2月14日(金)日野市立平山小学校で、ひのつ子教育21開発委員会の研究授業と発表会があります。当日は、平山小学校の教室と児童をおかりして授業を実施いたします。発表会は社会科分科会(講師 聖徳大学教授 廣嶋憲一郎先生)、理科分科会(講師 東京大学大学院 特任教授 日置光久先生)の各分科会でおこないます。

また、本年度の開発委員会は、社会科、理科の授業実践例をまとめ、日野市立小・中学校の教員の皆様にお渡しすることを目指しています。

Ⅱ 研修部

教職員研修係

教育センターは、日野市教育委員会学校課が計画した日野市立幼稚園、小・中学校教職員の研修事業を進める際に必要な業務を行っています。その主なものを紹介します。

(1) 若手教員育成研修(1・2・3年次)

若手教員育成研修(1・2年・3年次)の授業観察及び指導を行っています。1年次教員は、学習指導案が適切に作成されているか、授業が計画通り実施されているか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているか等の観点で授業を観察しています。指導員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら指導に当たっています。



2年次教員については、指導のねらいを明確にし、授業の流れを工夫した学習指導案を作成した上で授業に臨むように、授業後には授業評価を行い、改善策を考えていけるよう具体的に指導しています。3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うようにアドバイスをしています。

(2) 夏季全体研修会

7月23日、日野煉瓦ホール(大ホール)で、日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が開かれました。この研修は、「教育のまち日野」を支える教員が集う熱意あふれる全体研修会です。第1部では、「ひのスタンダード セカンドステージ」と題し、その取り組みについて明星大学人文学部准教授の小貫悟先生から講演があり、その後、「日野第三小学校」「日野第三中学校」「平山小学校」の3校から実践報告がありました。第2部では「夢を探そう」という演題で、東京藝術大学の学長 宮田亮平先生より、人とのつながりや伝え合うことの大切さ、教育は双方向であることなど、DVD等の映像を交え、講演いただきました。参加した教員の声として「ひのスタンダードの考え方、在り方を通して魅力ある授業づくりのヒントをもらえました。」という感想がありました。

教育センターは、全体研修会の開催に向け、日野市教育委員会と協力して、立看板を準備、受付名簿を作成、当日の受付をして、参加者の状況把握等を行いました。

(3) 若手教員育成研修(2年次・3年次)

8月27日 日野第一中学校を会場にして、2年次の教員が午前の半日、3年次の教員が午後の半日と、半日単位で開催されました。2年次教員は11グループ、3年次教員は9グループに分かれ、それぞれ一学期に実践した事例を発表し、学習展開の方法や教材教具の工夫等についてグループ協議を行いました。センター所員は、午前・午後一日、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行いました。それぞれ課題をもって2学期に臨むように励ましました。



(4) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、人権教育、外国語活動、特別支援教育・理科実技・昆虫スキルアップ・郷土教育・教育相談の各研修会の支援業務も教育センター研修部が行っています。各学校からの受講申し込みをまとめ、参加人数の把握や、受付名簿の作成、参加状況の把握等を行いました。

Ⅲ 相談部

日野市立教育センターの相談部には、一般教育相談係と適応指導（わかば）教室運営などを行う学校生活相談係が設けられていて、教育相談事業を行っています。

1 一般教育相談

一般教育相談係

— 確実な適応を目指した教育相談を—

前期（4月～9月）の活動

（1）教育相談 合計1,332件

教育相談室には、電話相談用の電話回線と子どもこころの電話相談専用の電話回線があります。

継続相談（予約・来室）は、昨年度から引き継いだ

55ケースと今年度4月から9月の間に受け付けた20ケースの合計75ケースです。75ケースのうち、これまでに7ケースが相談の問題が解決したり、他の専門的な機関に引き継いだことで終了しています。

電話相談	115件
子どもこころの電話相談	11件
継続相談	延べ 1,206件

（2）研修会等及び他機関との連携

合計34回



ケース連絡会、カンファレンス	6回
研修会等への参加、視察	24回
研修会の実施、講師の派遣	4回

夏季休業中、教員の10年経験者研修（写真）と教育相談研修を行いました。

研修は全相談員が講師を務め、10年経験者研修は28名、教育相談研修には19名の先生方が参加して、講義やロールプレイをとおして保護者対応や教育相談の

ノウハウなどについて学びました。ロールプレイは、参加者一人ひとりが保護者役・担任役の二役を体験し、「いろいろな立場の気持ちや感情がよくわかった」、「良かった例として、他の方のロールプレイを見せていただき、大変参考になった」などの感想が寄せられました。

（3）教育センター内の連携

一般教育相談係の課題の一つに「他機関との連携」があります。実際、相談を進める中で、他の支援機関や医療機関の情報を必要とすることも多く、毎年、新規に1～2施設を訪問して紹介先としての情報を収集しています。また、学校との関係では、昨年度から相談員が学校を訪問して情報を交換する試みを通して、協力関係を深めるように努めています。

一方、外部との連携とともに教育センター内で、適応指導教室（わかば）と登校支援コーディネータとの関わりがあります。現在、教育相談を受けている対象者には、わかば教室にも通室している子どもが8名おり、日常的に相談員とわかば教室担当者との情報交換が行われています。

その他にも年3回、相談室・わかば教室担当者全員と登校支援コーディネータとで相談部会を行っています。部会では、参加者全員でケース毎の情報交換や相談・指導の方向性などを確認・共有することで、より確実で効果的な支援を目指しています。

2 学校生活相談

学校生活相談係・わかば教室

—不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」—

学校生活相談係は、心因的要因やさまざまな状況によって不登校や登校しぶりの子ども達を適応指導教室「わかば教室」で受け入れ、生活や学習の支援及び指導を行なっています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康的で、明るく落ち着いた雰囲気でも過ごし、一人一人が意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。「学校生活相談係」は、その達成に向けた支援が使命だと考えています。しかし、現在の学校生活における子ども達の課題はさまざまです。その複雑な課題に対して、学校と連携し、また保護者・関係機関とも連携を密にし、改善を図っています。

心のケア・学力向上・体力増進・社会性の育成等を図るため、一人一人に対応したきめ細やかな支援をしています。相談活動を充実させ、楽しい行事を行なう等、人間関係を深め、実践力を培い、児童・生徒の活力向上を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

(1) 学校との連携

「わかば教室」では、市内各小中学校と連携し、児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、管理職の先生や担任の先生との話し合いを進める中で、指導方法を決めたり改善したりしています。また年間2回、市内の全小中学校を一般教育相談室及び登校支援コーディネータと連携し訪問しています。

(2) 『わかば教室』の行事について

「わかば教室」では、子どもたちの社会性や集団適応能力の育成のために、季節ごとに様々な行事を行なっています。遠足・お茶会・図書館訪問・ボランティア活動・社会科見学・音楽会、更には毎学期の誕生日会・収穫祭（調理実習）・スポーツ大会・外部講師による授業など、子どもたちの自主性を尊重しながらミーティングをして、行事の計画・実施を進めています。



(理科外部講師授業)



(栽培活動事前指導)

(3) 適応指導教室「わかば教室」通級の状況

平成24年度	5月 1日	小学生	3人	中学生	25人	合計	28人
	10月 1日	小学生	5人	中学生	33人		38人
	3月25日	小学生	5人	中学生	42人		47人
平成25年度	5月 1日	小学生	4人	中学生	26人		30人
	10月 1日	小学生	4人	中学生	35人		39人

日野市における不登校児童・生徒数は、毎年増加しています。その中であって、わかば教室から学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も殆どの子が元気に通学しています。学期・学年の変わり目は学校に復帰できる大きな機会です。小さな変容を大切に、生きる力を育み、不登校改善と学校復帰へとつながるよう保護者・学校や関係諸機関と連携を図り、新たな不登校児童・生徒の発生も防ぐ努力を続けています。

教育資料・広報係より

教育センター・Webサイトの紹介

<http://www.hino-tky.ed.jp/center/>

教育センターでは、学校へ必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

1 センター調査研究事業の成果の紹介

当センターでは、日野市内小・中学校の教育の充実のために調査研究事業を推進していますが、その成果をwebサイト上の同サイト上のPDFファイルで見ることができます。

また、ひのっ子郷土教育研究（郷土教育推進研究委員会）で発行された「郷土日野指導事例」（第1～8集）、関連資料集も同様にPDFファイルで見ることができます。

2 市内小・中学校の校内研究紀要の概要の紹介

日野市内の公立小・中学校においては、教員の実践的な指導力を高めるために校内研究を進めていますが、当センターでは、各校の昨年度の成果を概要にして紹介しています。また、教員や教育研究者の実践的な研究に役立つために「平成25年度 日野市教育委員会研究奨励校」については、各校の協力によりwebサイト上のPDFファイルにダウンロードによって提供しています。



新しく購入した本の紹介

- ・あなたが守るあなたの心・あなたのからだ 森田ゆかり著 童話館出版社
- ・子どもの心理臨床・へっちゃら君 M. サンダーランド著 誠信書房
- ・感情を抑圧した子どものために M. サンダーランド著 誠信書房
- ・ハティは親切大きらい M. サンダーランド著 誠信書房
- ・怒りや憎しみにとらわれた子どものために M. サンダーランド著 誠信書房
- ・通常学級での特別支援教育のスタンダード 東京書籍
- ・新版 東京都の蝶 西多摩昆虫同好会編著 けやき出版
- ・日本の地形 2 北海道 貝塚爽平〔ほか〕編著 東京大学出版会
- ・日本の地形 5 中部 貝塚爽平〔ほか〕編著 東京大学出版会
- ・日本の植物図鑑 I 森林 中西 哲著 保育社
- ・日本の植物図鑑 II 人里・草原 中西 哲著 保育社
- ・小学校学習指導要領解説各教科 文部科学省 東洋館出版社他
- ・中学校学習指導要領解説各教科 文部科学省 東山書房他

購入予定（12月）

- ・保存版ふるさと日野（写真集） 郷土出版社

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出いたします。電話、または校務支援メールでお申し込みください。交換便でお送りします。